

# 中学生、市長と語る会



▲恵那東中学校  
奥山翔乃祐君

●奥山翔乃祐 電車で乗り遅れると、次の電車が来るまで1時間以上かかることがある

## 交通や商業面で発達

■市長 犯罪や迷惑行為がなければ、安心して暮らせるまちができますね。

いを大切に、治安のいいまちが快適だと思えます。快適ではないまちは、暴力や事件、ごみのポイ捨てなどの迷惑行為があるまちです。周りに迷惑を掛けない社会的な感覚を持つ人を育てることが、治安のいいまちづくりにつながると思っています。



▲恵那西中学校  
平井萌々夏さん

ので、本数を増やすなどして交通網を発達させたいです。●西尾知夏 中心部は発達してきたけど、私の住む山岡町などはまだまだだと思おうので、交通網を豊かにして、離れた場所に住む人も中心部に移動しやすくなれば快適に生活できると思います。

## 安心して暮らせるまち

●大石真穂 地域の人が安心して暮らせて、一人暮らしのお年寄りなども近所で助け合っていけるまちにしたいかなって思っています。



▲上矢作中学校  
大石真穂さん

●市長 高齢者が自分で車を運転することが難しくなったときに、移動や買い物などを支援する仕組みは必要ですね。市では、移動販売車が各地を回る買い物支援を行っています。ですが、もっと広がってほしいと思います。

●野々村真白 高齢者だけで



▲明るい市の未来をつくるため、まちづくりについて提案した中学生の皆さん

# 10年後の恵那市のあるべき姿

## 中学生が積極的に提案

8月29日に市消防防災センターで、「中学生、市長と語る会」が開催されました。これは「まちづくりに若い中学生の意見を生かしたい」と平成17年度に可知市長の提案で始まり、こととして10回目。市内8中学校の代表生徒16人と、市長、教育長の18人が討論会方式で意見を交換。今回は「10年後の恵那市のあるべき姿」をテーマに、二つのサブテーマ「快適なまちとはどんなまち」「元気なまちであるために必要なこと」について、積極的に考えを提案しました。

市では、中学生の皆さんが出した意見を市の施策の参考として、まちづくりに生かしていきます。ここでは、内容の一部をお知らせします。(敬称略)

□問い合わせ 総合政策課 26-2111 (内線313)

サブテーマ  
1

## 快適なまちとはどんなまち

### 互いに交流し助け合う

●市長 皆さんこんにちは。10年後に25歳になっている皆さんに、思う存分意見を言ってもらいたいと思います。それでは最初のテーマについて話しましょう。快適なまちとは

はどんなまちだと思いますか。

●伊藤慎介 快適なまちとは、災害などが起きたときにみんなで助け合えるまちだと思います。普段から近所同士などで仲良くしていれば、安心して暮らせると思います。



▲明智中学校  
伊藤慎介君

●市長 互いに思いやりを持つことや、普段からの交流が大切ということですね。

●平井萌々夏 人との触れ合



▲岩邑中学校  
野々村真白さん

なく、障がい者も暮らしやすい環境をつくりたいです。まち全体がバリアフリーで負担なく移動できたり、障がい者の働く場所が整っていたりするといいと思います。

●市長 目の不自由な方のための点字ブロックを設置したり、耳の不自由な方には目で見える広報の放送方法を考えたりと、障がい者の方が暮らしやすい環境を考えていく必要があります。災害が起こって避難するときに、自力で動けない方を地域の人などで助けすることも大切ですね。

●伊藤佑華 どんな世代の人でも安心して暮らせるまちが大切だと思います。老人ホームに入れない人がたくさんいるので、そういう施設が増えるといいし、これから子どもを生んで育てたいと思う人のために、産婦人科や小児科、保育園や学童保育などが充実



▲上矢作中学校  
伊藤佑華さん

してほしいです。

●市長 高齢者施設をどうするか、これは国を挙げての大きな課題です。建設中の恵那病院では産婦人科の設置を進めています。少子化や子育ての問題も、考えていくべき大きな課題です。

## 住みたいと思えるまち

●樋田大知 ずっとここに住みたいと思えるのが快適なまちです。そのために、それぞれの地域のいいところをまとめた広告を作り目に付く場所に置くのでもいいと思います。

●市長 各地域のいいところ



▲恵那北中学校  
樋田大知君

●市長 恵那のいいところを100個集めた「えな100選」という冊子があります。これを読んで、皆さんに恵那のことを勉強してもらい、市民全員が恵那のいいところを外へ発信していければ、5万3000人分の宣伝ができます。そこから、恵那へ来てみたいとか、ずっと住んでみたいなどと思えるような快適なまちになっていけばいいですね。



▲山岡中学校  
成瀬大生君

をどんどん宣伝して恵那の魅力を伝えるということですね。

●成瀬大生 飯沼駅が日本一の急勾配の駅だということや、岩村駅の田園風景が美しいことなど、僕のように市民でも知らないことが実は多いです。それをもっと広めて、恵那の魅力をもっとみんなに知ってもらえば、ずっと住みたくなるかなと思います。

※この記事の詳細は、市ウェブサイト (<http://www.city.ena.lg.jp/>)「中学生、市長と語る会」のページで公開しています

元気なまちであるために必要なこと

■市長 今度は、「元気なまちであるために必要なこと」について、皆さんの意見を聞きたいと思います。

市内で交流を深める

●大島蘭奈 元気なまちであるためには、にぎやかであることが必要です。まちの宣伝をして人を呼び込めばにぎやかになるし、みんなで協力して宣伝すると市民同士の絆も深まるので、にぎやかになるんじゃないでしょうか。

●大橋竜也 知名度を上げれば、恵那に來たり住んだりする人が増えて活気が出ると思います。



▲恵那東中学校 大橋竜也君

■市長 にぎやかなことをすると、人が集まってきて元気になるといいですね。

●成瀬海斗 僕は小学生の頃ですが、中学生になって人と話すようになってきて活発になり、イベントにも参加するようになりました。やはり、地域などで人と交流を深めると、他の地域へ足を運ぶようになると、人同士の交流や物のやり取りが活発になるのかなと感じました。



▲恵那北中学校 館林佑花さん

●市長 地元の特産品などを販売することで元気なまちにできるということですね。

●成瀬海斗 僕は小学生の頃ですが、中学生になって人と話すようになってきて活発になり、イベントにも参加するようになりました。やはり、地域などで人と交流を深めると、他の地域へ足を運ぶようになると、人同士の交流や物のやり取りが活発になるのかなと感じました。

■市長 外からではなく市内の交流を盛んにすれば元気に



▲申原中学校 成瀬海斗君

●樋田大知 若い人だけでなく、高齢者も元気でまちに貢献することが必要だと思います。例えば、観光客のための休憩所を設置して地域の高齢者が地元の特産物を販売すれば、コミュニケーションも取れるし、高齢者の生きがいにもなると思います。

●大島蘭奈 私が暮らしているところ、空いた土地を売ったりして農業をやりたい若い人を呼び込めば、多くの人が住んでくれると思います。

●大橋竜也 もっと人口を増やすといいなと思います。それにはもっと多くの住宅が必要で、移住する上で負担になるのは費用だと思うので、市が補助をしてくれれば、移住しやすくなると思います。

●大島蘭奈 私が暮らしているところ、空いた土地を売ったりして農業をやりたい若い人を呼び込めば、多くの人が住んでくれると思います。

●大橋竜也 もっと人口を増やすといいなと思います。それにはもっと多くの住宅が必要で、移住する上で負担になるのは費用だと思うので、市が補助をしてくれれば、移住しやすくなると思います。



▲明智中学校 田中萌絵さん

●田中萌絵 若い人が市外に出て行ってしまふのを防がないといけないです。働く場が少ないとか交通の便が悪いと



▲恵那西中学校 山本純奈さん

コミュニケーションを取りながら働ける場所を作りたいと考えています。

●山本純奈 有名な企業を恵



▲可知義明市長

●伊藤慎介 僕たちぐらゐの世代がずっと恵那に残って、この先の市をつくるのが大切だと思います。でも、恵那は交通網などが発達してないので、もっと整備されれば便利になるかなと思います。

●伊藤佑華 やはり若い人が多く住んでると元気なまちだと思います。都会の人で、農業がやりたくても農地が無くてできない人がいると聞き

●市長 自分たちのまちづくりに積極的に参加することが元気につながると、頼もしい意見を言ってくれました。



▲大畑雅幸教育長

まとめ

●大畑教育長 これから皆さんは、さまざまな道を歩むでしょう。ぜひ、これからも恵那を見守り、支えてほしいです。生まれ育ったこのまちを元気に盛り上げていくために、皆さんの若い力や知恵をどんどん生かしてもらえとうれしいです。



▲申原中学校 大島蘭奈さん

●市長 市の中の交流も大事だと言ってくれました。

中学生がまちを元気に

●大石真穂 上矢作中学校では2年前から「上矢作プロジェクト100」という取り組みを行っています。文化財の写真を自分たちで撮ってカレンダーを作ったり、地域の食材を使った商品開発をしたりして、地域の魅力を発信しています。

●遠山幸希 岩邑中学校では「温故知新」という学習時間で岩村町のことを勉強しています。自分たちで宣伝動画を制作し、岩村町の各所で皆さんが見られるよう情報発信しています。



▲岩邑中学校 遠山幸希君

●市長 中学生の皆さんがまちの宣伝に積極的に参加する素晴らしい取り組みですね。

●平井萌々夏 元気なのは若者や子どもが多く住むまちだと思いますが、それには働く場所が不可欠です。さらに仕事だけでなく、地域と関わる時間も確保できるような労働環境も大切だと思います。



▲山岡中学校 西尾知夏さん

▼各中学校の代表生徒と市長が活発に意見を交換

